

6 主題名 あたたかい心で B(6) 親切、思いやり (旧2-(2))

7 教材名 かいだんであった おばあさん

8 ねらい 「はやくしてください。」と言われたおばあさんの気持ちを考えるを通して、高齢者の方の困難さや、自己中心的な考えや行動が高齢者の方を傷つけていることに気付くことができる。

9 本時の展開 **Q** ……確かにするための補助発問

個の実態に応じたねらい		自己中心的な行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気付き、相手に喜んでほしいという願いをもち思いを伝えることで、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。	自己中心的な行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気付き仲間とかかわる経験を想起して声をかけることで、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。	自己中心的な行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気付き、自分の要求を抑えて相手の様子を見て声をかけることで、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。	自己中心的な考えや行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気付き、高齢者の方の立場になって考え、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。
基本発問と見届ける視点 (◇)、指導・援助 (・)		A児	B児	C児	D児
導入	1 ぼくやおばあさんの顔を見て、どんな気持ちか考えようね。 ◇登場人物の表情に着目することを理解しているか。 ・紙芝居を観る視点を明確にし、ぼくやおばあさんの気持ちを考えることができるようにする。	・登場人物の表情に注目して話を聞く意識がもてるようにする。	・登場人物の表情に注目して紙芝居を見る意識がもてるようにする。	・登場人物の表情に注目して紙芝居を見る意識がもてるようにする。	・登場人物の表情に注目して話を聞く意識がもてるようにする。
展開前段	2 階段を上るぼくはどんな気持ちかな。 ◇ぼくの気持ちに気付いているか。 ・表情カードと絵とを照らし合わせ、気持ちを表す言葉カードを使ったり、ロールプレイをしたりすることで、ぼくのイライラしている気持ちに気付くことができるようにする。	A : おそいな。 A : はやくいきたいな。	B : はやく。 B : どいて。	C : おそいな。 C : はやくして。	D : はやくいきたいな。 D : はやくのぼってよ。
	3 階段を上っているおばあさんはどんな気持ちかな。 ◇おばあさんの気持ちに気付いているか。 ・おばあさんの表情から、悲しい気持ちに気付くことができるようにする。 ・「おばあさんの顔を見たときに、ぼくはどんな気持ちになったかな。」と、問いかけることで、自己中心的な考えがおばあさんを傷つけていたことに気付くことができるようにする。 ・体験の写真と感じたことの掲示を示し、高齢者疑似体験を想起することで、おばあさんの気持ちや困難に共感できるようにする。	A : かなしいな。 Q なんで悲しいのかな。 A : はやくっていわれたから。 ・疑似体験を想起することで、階段を速く上がることが困難であることを理解されないおばあさんの悲しい気持ちを感じることができるようにする。	B : えんえん。 Q えんえんはどんな気持ちかな。 B : かなしい。 ・表情カードを選択したり、言葉カードを選択したりすることで、表情から気持ちを察することができるようにする。	C : かなしいな。 Q なんで悲しいのかな。 C : (「はやくして。」をタッチする) ・悲しい気持ちの理由を考えることで、自己中心的な考えがおばあさんを傷つけていることに気付くことができるようにする。	D : かなしい。いやだな。 Q ぼくはどんな気持ちになったかな。 D : しまったな。おばあさん、たいへんなのに、はやくって行ってごめんなさい。 ・ぼくの気持ちを考えることで、自己中心的な考えがおばあさんを傷つけていることに気付くことができるようにする。
展開後段	4 どんな声をかけるといいかな。 (ゆっくりでごめんね。) いいですよ。 だいじょうぶですか。 にもつもちましようか ◇高齢者の立場になって考え、行動しようとしているか。 ・おばあさんの気持ちになって言葉を選択したり、言動を考えたりすることで、高齢者の方の立場になって考え、行動できるようにする。 【人権教育の観点】 高齢者の方の困難さや、自己中心的な考えが高齢者の方を傷つけてしまうことに気付き、高齢者の方の立場になって考え、行動しようとする態度を養う。(自己啓発力<そのための手立て>) ・3において、おばあさんの顔を見たときの気持ちを問いかけることで、自己中心の考えがおばあさんを傷つけていたことに気付くことができるようにする。 【変容の見届け】 ◇高齢者の方の立場になって、気持ちを察しているか。 ・ぼくの気持ちを考え、おばあさんの気持ちを考えることで、自己中心的な考えから相手の立場になって考え、自己を見つめることができるようにする。	T : ゆっくりでごめんね。 A : いいよ。 ・「おばあさんがうれしい気持ちになるから、いいよ。と言ったんだね。」と、相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付ける。	T : ゆっくりでごめんね。 B : だいじょうぶ。 ・「Bさん、おばあさんもやっぱりにこにこだよ。」と、仲間を思いやる声をかけた経験を基に、相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付ける。	C : だいじょうぶですか。 T : ありがとう。 ・D児やF児がロールプレイをする様子を見て、「だいじょうぶですか。」と声をかけられたおばあさんのうれしそうな表情を見ることで、仲間の真似をして、相手の立場になって行動することができるようにする。 ・「大丈夫ですか。と声をかけてゆっくりに歩いてくれると、うれしい気持ちになるよ。」と、相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付ける。	D : だいじょうぶですか。にもつをもちましようか。 T : ありがとう。 ・「どうして荷物を持ってくれたの。」と問いかけ、疑似体験を想起して、おばあさんの気持ちや困難な状況を考えることができるようにする。 ・「おばあさんの気持ちを考えて、助けたいと思ったから、速く行きたいのを我慢して荷物を持ってくれたんだね。」と、自分の気持ちを抑え、相手の立場になって行動できたことを価値付ける。
	5 本時の振り返りをする。 ◇高齢者の方の立場になって考え、思いやりをもってかかわることができたか。 ・表情を見て、気持ちを察したり、思いやりをもってかかわったりすることができた姿を価値付ける。	・おばあさんがにこにこになってほしいという願いをもち、自分の気持ちを抑え、「いいよ。」と話すことができた姿を、花丸とサインで認める。	・おばあさんに、「だいじょうぶ。」と声をかけ、相手を思いやることができた姿を、花丸とハイタッチで認める。	・おばあさんの様子を見て、自分の気持ちを抑えて「だいじょうぶ。」と声をかけることができた姿を、花丸とハイタッチで認める。	・疑似体験を基に、おばあさんの気持ちを考え、おばあさんの立場になって行動することができた姿を、花丸とハイタッチで認める。

10 「わたしたちの道徳」の活用の具体

前時の道徳で、「わたしたちの道徳 (小学校一・二年)」のP66、P67に載っている「(2) あたたかい 心で 親切に」を参考にした資料を用いて、高齢者の方に触れる。身近な高齢者の方を想起しながら、「お年寄りの方に、どのようなことをすると喜んでもらえるかな。」と問いかけることで、高齢者の方に優しくしたいという願いをもつことができるようにする。事後には、身近な高齢者の方の立場になって思いやりをもってかかわることができた姿を、本時とかかわらせて価値付け、個の変容を見届ける。

6 主題名 あたたかい心で B(6) 親切、思いやり (旧2-(2))

7 教材名 かいだんであった おばあさん

8 ねらい 「はやくしてください。」と言われたおばあさんの気持ちを考えるを通して、高齢者の方の困難さや、自己中心的な考えや行動が高齢者の方を傷つけていることに気付くことができる。

9 本時の展開 **Q** …確かにするための補助発問

個の実態に応じたねらい		自己中心的な行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気づき、相手の立場になって行動する良さを味わうことで、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。	自己中心的な考えや行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気づき、仲間の様子を見ながら高齢者の方の立場になって考え、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。	自己中心的な行動によって高齢者の方が傷ついてしまうことに気づき、仲間の様子を見て声をかけ、相手の立場になって行動する良さを味わうことで、思いやりの心をもってかかわろうとする態度を養う。
基本発問と見届ける視点 (◇)、指導・援助 (・)		E児	F児	G児
導入	1 ぼくやおばあさんの顔を見て、どんな気持ちか考えようね。 ◇登場人物の表情に着目することを理解しているか。 ・紙芝居を観る視点を明確にし、ぼくやおばあさんの気持ちを考えることができるようにする。	・登場人物の表情に注目して話を聞く意識がもてるようにする。	・登場人物の表情に注目して紙芝居を見る意識がもてるようにする。	・登場人物の表情に注目して紙芝居を見る意識がもてるようにする。
展開前段	2 階段を上るぼくはどんな気持ちかな。 ◇ぼくの気持ちに気付いているか。 ・表情カードと絵とを照らし合わせ、気持ちを表す言葉カードを使ったり、ロールプレイをしたりすることで、ぼくのイライラしている気持ちに気付くことができるようにする。	E：プンプン。	F：はやくいきたいな。 F：はやくのぼってほしいな。	G：(おこったかおをタッチ)
	【確かにする場】 3 階段を上っているおばあさんはどんな気持ちかな。 ◇おばあさんの気持ちに気付いているか。 ・おばあさんの表情から、悲しい気持ちに気付くことができるようにする。 ・「おばあさんの顔を見たときに、ぼくはどんな気持ちになったかな。」と、問いかけることで、自己中心的な考えがおばあさんを傷つけていたことに気付くことができるようにする。 ・体験の写真と感じたことの掲示を示し、高齢者疑似体験を想起することで、おばあさんの気持ちや困難に共感できるようにする。	E：えんえん。 Q えんえんはどんな気持ちかな。 E：かなしい。 ・表情カードを選択し、言葉カードと一緒に選択することで、表情から気持ちを察することができるようにする。	F：かなしい。いやだな。 Q ぼくはどんな気持ちになったかな。 F：しまったな。おばあさん、たいへんなのに、はやくっていったからかなしいもちなんだ。 ・ぼくの気持ちを考えることで、自己中心的な考えがおばあさんを傷つけていることに気付くことができるようにする。	G：(かなしいかおをタッチ) Q なんて悲しいのかな。 G：(「はやくして。」をタッチする) ・悲しい気持ちの理由を考えることで、階段を速く上がることが困難であることを理解されないおばあさんの悲しい気持ちを感じることができるようにする。
展開後段	【学習成立を見届ける場】 4 どんな声をかけるといいかな。 (ゆっくりでごめんね。) いいですよ。 だいじょうぶですか。 にもつをもちましようか ◇高齢者の立場になって考え、行動しようとしているか。 ・おばあさんの気持ちになって言葉を選択したり、言動を考えたりすることで、高齢者の方の立場になって考え、行動できるようにする。 【人権教育の観点】 高齢者の方の困難さや、自己中心的な考えが高齢者の方を傷つけてしまうことに気づき、高齢者の方の立場になって考え、行動しようとする態度を養う。(自己啓発力<そのための手立て>) ・3において、おばあさんの顔を見たときの気持ちを問いかけることで、自己中心の考えがおばあさんを傷つけていたことに気付くことができるようにする。 【変容の見届け】 ◇高齢者の方の立場になって、気持ちを察しているか。 ・ぼくの気持ちを考え、おばあさんの気持ちを考えることで、自己中心的な考えから相手の立場になって考え、自己を見つめることができるようにする。	T：ゆっくりでごめんね。 E：いいよ。 T：ありがとう。 ・「ありがとう。」と笑顔で話すことで、相手の立場になって行動するよさを感じることができるようにする。 「いいよ。おばさんにここに。うれしいよ。」と、相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付ける。	F：だいじょうぶですか。にもつをもちましようか。 T：ありがとう。 ・「どうして荷物を持ってくれたの。」と問いかけ、疑似体験を想起して、おばあさんの気持ちや困難な状況を考えることができるようにする。 ・「おばあさんの気持ちを考えて、大変だと思ったから、速く行きたいのを我慢して荷物を持ってくれたんだね。」と、自分の気持ちを抑え、相手の立場になって行動できたことを価値付ける。	T：ゆっくりでごめんね。 G：だいじょうぶ。 ・「Gさん、だいじょうぶは、おばあさんにもここにだよ。」と、仲間を思いやる経験を基に、相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付ける。
終末	5 本時の振り返りをする。 ◇高齢者の方の立場になって考え、思いやりをもってかかわることができたか。 ・表情を見て、気持ちを察したり、思いやりをもってかかわったりすることができた姿を価値付ける。	・おばあさんがにこにこになってほしいという願いをもち、「いいよ。」と話すことができた姿を、花丸とサインで認める。	・疑似体験を基に、おばあさんの気持ちを考え、おばあさんの立場になって行動することができた姿を、花丸とハイタッチで認める。	・おばあさんの表情から気持ちを考えたり、「だいじょうぶ。」と声をかけたりして、相手を思いやることができた姿を、花丸とハイタッチで認める。

10 「わたしたちの道徳」の活用の具体

前時の道徳で、「わたしたちの道徳 (小学校一・二年)」のP66、P67に載っている「(2) あたたかい 心で 親切に」を参考にした資料を用いて、高齢者の方に触れる。身近な高齢者の方を想起しながら、「お年寄りの方に、どのようなことをすると喜んでもらえるかな。」と問いかけることで、高齢者の方に優しくしたいという願いをもつことができるようにする。事後には、身近な高齢者の方の立場になって思いやりをもってかかわることができた姿を、本時とかかわらせて価値付け、個の変容を見届ける。